

第1学年 国語科学習指導案

単元名：真実を語る『未来をひらく微生物』大島泰郎

教科に関する調査の設問別の分析結果

平成21年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査 中学校国語2学年 四 4

【出題の趣旨】

文章の構成や論理の展開を正確にとらえることができる。

【学習指導要領の内容・領域】

第一学年 C読むこと

ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(水口博也
「クジラ 大海をめぐる巨人を追って」
による。)

4 この文章において、筆者は、サトウクジラの声についてどのように論を展開していますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。
ア まず、自分の体験をもとに説明し、次に、博士らの研究により分かった事実を説明した後、意見を述べて、読み手に問いを投げかけている。
イ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、博士らの研究により分かった事実を説明した後、読み手に問いを投げかけ、問いの答えを述べている。
ウ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、読み手に問いを投げかけ、問いの答えを述べた後、博士らの研究により分かった事実を述べている。
エ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、読み手に問いを投げかけ、博士らの研究により分かった事実を述べた後、問いの答えを述べている。

	正答率
本校	50.0%
広島県	56.5%

解答 類型	1	2	3	4	左記 以外	無回答
本校の 割合(%)	50.0	15.0	20.0	15.0	0.0	0.0

正答について
イ

この問題を解くために必要な力

- 文章の展開をとらえ、全体の構成やそれぞれの段落の役割を理解する力。
- 文章から必要な情報を読み取り、整理する力。

誤答分析

- 解答類型2(ア)について、意見と問いの投げかけの部分が区別できておらず、二つの段落を一つの内容と捉えている。
- 解答類型3(ウ)について、体験の説明と事実の部分が区別できておらず、二つの段落を一つの内容と捉えている。
- 解答類型4(エ)について、体験の説明と事実の部分を区別できておらず、二つの段落を一つの内容と捉えている。また、問いに対する的確な答えをつかむことができていない。

(質問紙項目との関連)

- 質問項目15「国語の授業では、段落や文章全体の組み立てに注意して文章を読んでいます。」

あてはまる			あてはまらない		
よく	やや	計	計	あまり	まったく
15.0	25.0	40.0	60.0	55.0	5.0

この結果が、「文章の展開に即して登場人物の心情を捉える」問題や「構成や論理の展開を捉える」問題の通過率の低さと一致していると考えられる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

平成21年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査 中学校国語2学年 四 4

【単元名】 5 真実を語る 未来をひらく微生物

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・文章の展開をとらえ、全体の構成やそれぞれの段落の役割を理解する力。
- ・文章から必要な情報を読み取り、整理する力。

【指導上の課題】

- ・段落相互の関係を正しく押さえることができない。
- ・文章から必要な情報を読み取り、整理して書くことが十分にできない。
- ・文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などの読み分けが十分にできない。



指導改善のポイント

【指導の工夫】

- ・各段落の要旨をまとめさせたり、指示語や接続語をもとに文章全体の構成を考えさせたりするための学習活動を工夫する。
- ・必要な情報を図式化したり文章化させたりして、文章の構成を読み取って全体をまとめることができるような学習活動を仕組む。
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見をキーワードを基に読み分けるための指導を工夫する。

各段落の要旨をまとめさせたり、指示語や接続語をもとに文章全体の構成を考えさせたりするための学習活動を工夫する。

- ・字数制限をつけたり、助詞の使い方を確認したりするなど、各段落の要旨を条件に沿ってまとめて書けるようにし、文章全体の構成を把握できるようにワークシートを工夫する。

必要な情報を図式化させたり文章化させたりして、文章の構成を読み取って全体をまとめることができるような学習活動を仕組む。

- ・文章全体の内容（導入＝微生物の働き、本文＝具体的な試み、まとめ＝結論）をワークシートやグループ学習などを通して読み取らせ、その後レポートを書く場を設定する。レポートを書くために、文章から必要な情報を取り出させ、図式で表したり、比較の視点をもって文章を書かせたりする。

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見をキーワードを基に読み分けるための指導を工夫する。

- ・指示語や接続語、キーワードを手がかりにして内容を読み分けることができるようにワークシートや指導を工夫する。

第1学年 国語科学習指導案

単元名：真実を語る『未来をひらく微生物』大島泰郎

単元について

本単元は、微生物の働きや特徴をとらえ、環境問題の改善に向けての微生物の活躍を分かりやすく書いた説明文である。微生物というとなじみが薄いように思うが、この文章を読むと、微生物が自分たちの生活と深い関係にあることがわかる。そして、今、社会的な問題になっている環境問題の解決に関わっていることを知ることでもでき、微生物を身近に感じることができる。

また、本単元の目標に「段落や構成に着目して読み」とあり、生徒の課題となっている「文章の展開をとらえ、全体の構成やそれぞれの段落の役割を理解する力」を付けるのに適しているともいえる。

なお、内容も今までに学習した説明文と同様に「導入・本文・まとめ」の構成となっており、各段落にキーワードとなる言葉や指示語・接続語などが効果的に使われているので、構成をとらえるのに分かりやすい文章である。よって、キーワードを基にして各段落の内容をまとめることも可能である。ワークシートを用いて、グループで学習をしたり図式や文章でまとめたりするなどさまざまな学習活動を通して文章全体の構成や内容を読み取らせ、さらに、後続の単元「調べたことを正確に伝えよう」へつなげていきたいと考える。

調査結果からみる課題

<誤答分析から>

- ・問題文の各段落にある意見と問いの投げかけの部分の区別ができておらず、二つの段落を一つの内容と捉えている。
- ・体験の説明と事実の部分が区別できておらず、二つの一つの内容ととらえている。また、問いに対する確かな答えをつかむことができていない。

<指導上の課題>

- ・段落相互の関係を正しく押さえることができない。
- ・文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などの読み分けが十分にできない。
- ・文章から必要な情報を読み取り、整理して書くことが十分にできない。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

(書くこと 読むこと)

全文を通読し、各段落を決められた字数でまとめる。()

それぞれの段落を「導入・本文・まとめ」に分けて、文章の構成をとらえる。()

本文を図式化したり文章化したりして文章の内容をとらえる。()

微生物を利用した環境問題の解決策について調べ、レポートを書く。()

まとめた文章を交流する。

(2) 「ことばの教育」との関連

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒につけたい力は次の通りである。

文章の図式化、文章化を通して内容をとらえる活動場面・・・情報を的確に分析する力

文章の構成をグループ、全体で説明する場面・・・自分の考えを根拠をつけて的確に表現する力

単元の目標

関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> ・微生物と環境の関係を理解し、わかりやすくまとめて書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読み取って図式化や文章化し、文章の構成を理解し、自分の文章に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語や接続語，キーワードの効果的な使い方注目して，段落の役割を理解し，文章構成や展開を正確にとらえている。 ・文章から要旨に関する必要な事項を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中にある重要な語句の意味を正しく理解している。

指導と評価の計画

(全6時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評価方法
		関	書	読	言	
一	本文を通読し，各段落の内容をまとめる。(1)					ノート ワークシート
	各段落のまとめの文章をもとに，全体の構成をとらえる。(1) 本時 1/1					
	「導入・本文・まとめ」に書かれている内容をまとめる。(2)					
二	微生物を利用した環境問題の解決策について調べ，レポートを書いて交流する。(2)					レポート

本時の学習

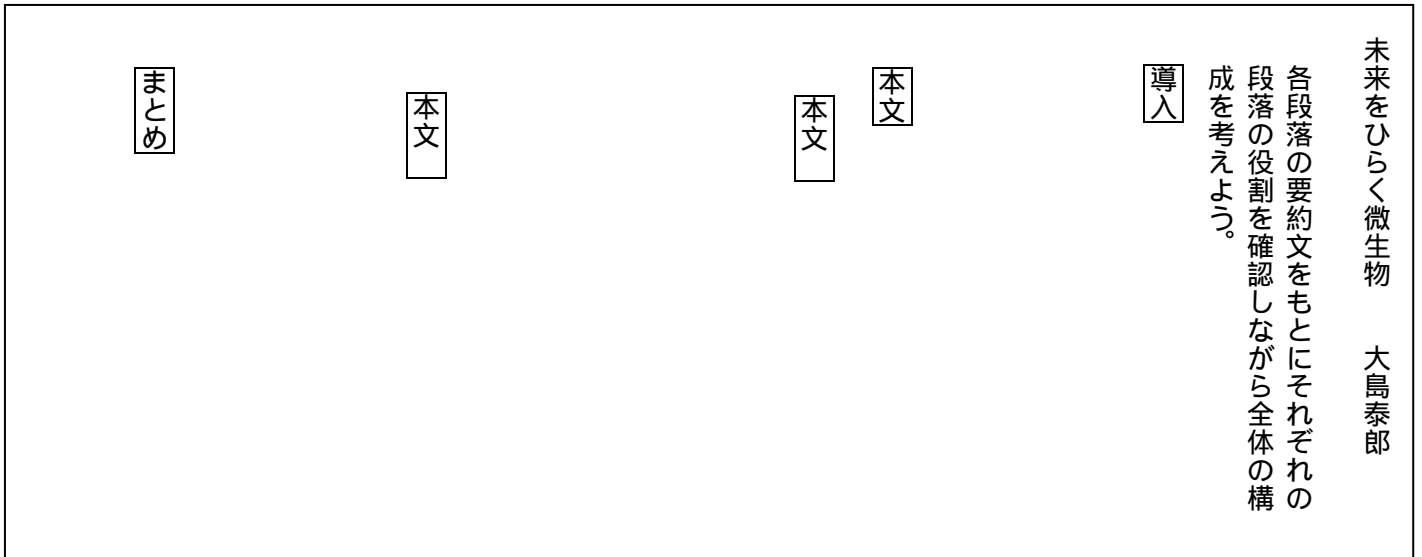
(1) 本時の目標

- ・各段落の要約文を基に，それぞれの段落の役割を確認しながら全体の構成をとらえる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
<p>1 前時をふりかえり,本時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読活動をする。 ・文章の構成について復習をする。 ・本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の要約文を音読させる。 ・全段落数，導入・本文・まとめの構成や役割について確認させる。 		
<p>各段落の要約文をもとに、各段落の役割を確認しながら文章全体の構成をとらえよう。</p>			
<p>2 全体構成をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で全体構成に沿って段落分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の要約文をもとに，「導入」・「本文」・「まとめ」がそれぞれどこからどこまでなのかを考えさせる。 ・指示語や接続語にも注目しながら段落を分けるようにヒントを与えながら活動させる。 		
<p>3 全体構成をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成の確認をグループで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこのような構成にしたのか，根拠を挙げさせながら，グループでまとめさせる。（指示語，接続語，重要語句などを板書に提示する。） 		
<p>4 全体構成をとらえ,まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでまとめた構成を発表し，交流する。 ・全員で,文章構成を確認する。 ・次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで，どうしてこの構成にしたのかを，根拠を挙げて発表させる。 ・家庭学習について指示を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語や接続語，キーワードの効果的な使い方に注目するとともに，各段落の役割に着目して，文章構成や展開を正確にとらえている。 	<p>観察 ワークシート</p>

(3) 板書計画



検証

検証の方法

広島県「基礎・基本」定着状況調査に類似した問題を作成し、2学期期末試験で、「文章の構成を捉えてそれぞれの段落の役割を理解する力」や「文章から必要な情報を読み取って整理する力」を問う。また、『未来をひらく微生物』で本文の文章構成を樹形図を用いて学習したので、あわせて問うことにした。

〔1年生 2学期期末試験〕
 (二 問題文 『砂漠は生きていた』高田勝)

3 この文章はどのように論が展開されているか。次の中から当てはまるものを記号で選び、答えなさい。

- ア まず、カンガルーネズミについて紹介をし、次に具体的な事実を取り上げ、最後に筆者の意見を述べている。
- イ まず、カンガルーネズミについて自分の意見を述べ、次に具体的な事実を取り上げ、最後にまた自分の意見を述べている。
- ウ まずカンガルーネズミについて紹介をし、次に具体的な事実を挙げながら、人間の生活と比べている。
- エ まずカンガルーネズミについて紹介をし、次に疑問に思ったことを挙げ、最後にその答えを書いている。

4 この文章を「導入・本文・まとめ」に分けるとどうなるか。
 最も適切なものを記号で選び、答えなさい。

- ア 導入〔1〕 本文〔2・3・4・5〕 まとめ〔6・7・8〕
- イ 導入〔1・2〕 本文〔3・4・5〕 まとめ〔6・7・8〕
- ウ 導入〔1・2〕 本文〔3・4・5・6〕 まとめ〔7・8〕

検証結果

3< 正答について：ア>

4< 正答について：イ>

解答 類型	ア	イ	ウ	エ
割合 (%)	38	0	52	10

解答 類型	ア	イ	ウ
割合 (%)	33	19	48

結果・考察

〔誤答分析 二 3〕

- ・「解答 ウ」... 〔6〕段落目と〔7〕段落目が、人間と自然との関わりについて書いている段落であり、そこから「ウ」と答えたと考えられる。
- ・「解答 エ」... 〔2〕段落から〔5〕段落目が、カンガルーネズミの水分量の調整について書いている段落であり、そこを筆者の疑問点および答えととらえたと考えられる。

〔誤答分析 二 4〕

- ・「解答 ア」... 〔2〕段落目は、カンガルーネズミの生態について説明されている段落であるが、これを「具体例 = 本文」ととらえたと考えられる。
- ・「解答 ウ」... 〔6〕段落目と〔7〕段落目は、人間と自然との関わりについて書かれているが、この二つの段落のつながりが理解できていないと考えられる。

なお、授業で学習した『未来をひらく微生物』でも上記と類似の問題を出した。この場合、論の展開についての正答率は62%、樹形図についての正答率は85%であった。授業で学習すれば、ある程度理解できる。しかし、まだ十分に定着していないため、他の文章では学習したことを応用できないということが分かった。この傾向は2年生でも同じことが言えた。

今後は、教科書以外の文章を読む取組みも積極的に取り入れ、多くの文章に慣れさせる必要がある。教科書で学習をした後、練習問題や小テスト、さらに定期テストでも応用問題として教科書以外の文章を取り入れていく。そして、数多くの文章や問題を経験させていきたい。

(資料)

高野中学校 2学期期末試験より

一年生 [1年生 2学期期末試験]

(二 問題文 『砂漠は生きていた』高田勝) : 『国語の学習 2 改訂版』(浜島書店 P.20)

- 1 カンガルーネズミとおぼしき、しっぽのえらく長いネズミがライトの先を横切る。
- 2 この動物こそ徹底した水分節約主義者として有名だ。水を飲まないまでも生きていけるといわれる。といて、サボテンなど水分の多いものを食べているのでもなく、乾いた小さな種子を主食にしている。
- 3 その秘密は、水分の収支決算を厳密にしているところにあるらしい。日中は深く湿り気のある穴の中で過ごし、呼吸を抑えて出る水分量を減らし、なおかつほんのわずか出てしまう水分と、穴の湿気をふたたび体内に取り込んでしまう。夜に出歩いて、えさについた湿気も取り込む。そのうえで、排尿をほとんどしない。
- 4 そしてこの動物は、これをえさとする他の大型動物にとってのこのうえなく大切な水分補給源となっているのだ。
- 5 ツメに火をともしように、切りつめ切りつめて蓄えた水分が、他の動物のための水になる。自然のサイクルとはいえ、あまりに哀れではある。
- 6 日本人は水に恵まれすぎて、水のありがたさをもっと知らない国民と言われている。
- 7 カンガルーネズミの運命に思いをはせながら、そんなことが頭に浮かび、連鎖的に森林伐採のことや河川改修のことどもに思いついて、あわてて頭をふりはらった。
- 8 しかし、生きる、生き抜くということのものすごさの実感だけは、消えもしなかったし消そうとしなかった。

3 この文章はどのように論が展開されているか。次の中から当てはまるものを記号で選び、答えなさい。

- ア まず、カンガルーネズミについて紹介をし、次に具体的な事実を取り上げ、最後に筆者の意見を述べている。
 イ まず、カンガルーネズミについて自分の意見を述べ、次に具体的な事実を取り上げ、最後にまた自分の意見を述べている。
 ウ まずカンガルーネズミについて紹介をし、次に具体的な事実を挙げながら、人間の生活と比べている。
 エ まずカンガルーネズミについて紹介をし、次に疑問に思ったことを挙げ、最後にその答えを書いている。

4 この文章を「導入・本文・まとめ」に分けるとどうなるか。
最も適切なものを記号で選び、答えなさい。

- ア 導入 [1] 本文 [2・3・4・5] まとめ [6・7・8]
 イ 導入 [1・2] 本文 [3・4・5] まとめ [6・7・8]
 ウ 導入 [1・2] 本文 [3・4・5・6] まとめ [7・8]

3< 正答について：ア>

解答 類型	ア	イ	ウ	エ
割合 (%)	38	0	52	10
	8	0	11	2

4< 正答について：イ>

解答 類型	ア	イ	ウ
割合 (%)	33	19	48
	7	4	10